



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911

株主通信

YBHD NEWS No.55

平成30年8月

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、株主通信「YBHD NEWS」第55号をお届けいたします。
我が国経済につきましては、雇用と所得環境が緩やかな回復基調で推移し、企業収益も改善傾向にあります。各国の保護主義政策がもたらすリスクを背景とした世界経済の不確実性が国内経済にも影響を及ぼす可能性があり、先行きが不透明な状況が続いております。

国内の建設動向につきましては、首都圏の基幹的な道路整備計画であります3環状道路の建設が進められており、当社グループでは東京外環の高谷ジャンクションなどの大型橋梁工事に加え、シールドトンネル用セグメント工事などを施工いたしました。本年6月には、基本計画の発表から半世紀を経て、東京外環の三郷南インターチェンジから高谷ジャンクション区間が開通し、3環状道路の完成まで大きく前進いたしました。その上、東京オリンピック・パラリンピック関連事業に加えて、都市部の再開発事業が予定されており、建設需要は当面、堅調に推移するものと思われま

す。橋梁事業につきましては、当第1四半期に国土交通省や高速道路会社などから、前年同期を上回る新設橋梁が発注され、当社グループは順調に受注を積み重ねることができました。エンジニアリング関連事業につきましても、システム建築事業の工場・倉庫の旺盛な需要が継続しましたため、受注高は前年同期から大幅に増加いたしました。

しかし、両事業とも売上が前年同期を上回った一方で、営業利益が伸び悩みましたので、第2四半期以降は損益改善に努めてまいります。その一環として、千葉県茂原市に取得いたしました土地にシステム建築の第2工場を建設し、受注拡大に対応できる生産体制を整え、外注費用を抑えることにより、事業効率の向上を図ってまいります。

今後も適切な設備投資を進めることで、グループとしての次のステップへの基盤を確かなものとし、今期末の目標達成に全力で取り組んでまいります。

最後になりますが、役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう、より一層努めてまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年8月



代表取締役社長 加井久司

平成30年7月30日に、平成31年3月期第1四半期(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)の決算短信を公表いたしましたので、その概況につきましてご紹介いたします。

連結経営成績(累計)

	平成31年3月期第1四半期	平成30年3月期第1四半期
売上高	33,182 百万円	28,548 百万円
営業利益	2,048 百万円	2,469 百万円
経常利益	2,156 百万円	2,622 百万円
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,424 百万円	1,767 百万円

【連結経営成績に関する定性的情報】

当社グループの当第1四半期における受注高は450億3千万円(前年同期比14.1%増)となり、第1四半期としての過去最高を更新しました。

セグメント別の受注高は、橋梁事業227億円(同9.3%増)、エンジニアリング関連事業209億7千万円(同23.9%増)、先端技術事業は13億4千万円(同22.8%減)となりました。

決算面につきましては、売上高は331億8千万円(同16.2%増)となり第1四半期として過去最高を記録しました。一方、営業利益は20億4千万円(同17.0%減)、経常利益は21億5千万円(同17.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は14億2千万円(同19.4%減)となり、それぞれ前年同期を下回りました。

セグメント別の売上高は、橋梁事業につきましては、豊富な手持ち工事が順調に進捗しましたため、売上高は170億3千万円(同11.7%増)となりました。受注時採算に格段の変化は見られませんが、一部大型工事での損益悪化と新規受注に伴う工事損失引当金の計上などにより、営業利益は10億6千万円(同8.0%減)と伸び悩みました。

エンジニアリング関連事業につきましては、売上高は148億2千万円(同27.9%増)となりましたが、営業利益は10億円(同18.4%減)に止まりました。

先端技術事業につきましては、売上高は11億4千万円(同24.3%減)、営業利益は1億9千万円(同23.7%減)と何れも前年同期を下回りましたが、概ね計画通りの進捗となりました。

平成31年3月期の連結業績予想

	第2四半期連結累計期間 (平成30年4月1日～平成30年9月30日)	通期 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)
売上高	73,500 百万円	150,000 百万円
営業利益	5,700 百万円	11,800 百万円
経常利益	5,750 百万円	11,900 百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	3,850 百万円	8,100 百万円
1株当たり当期純利益	93 円 17 銭	195 円 98 銭

【連結業績予想に関する将来予測情報】

平成31年3月期第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想につきましては、前回(平成30年5月14日付け)公表いたしました予想値から変更はありません。

株式会社 横河ブリッジ



株式会社横河ブリッジ
代表取締役社長 高田 和彦

就任の抱負

当社は、創業以来、110年を超えて国内外の橋梁の建設、鋼構造物の製造など社会インフラ整備の一翼を、常に業界のトップカンパニーとして担ってまいりました。2015年10月には、旧株式会社横河ブリッジと旧横河工事株式会社が合併し、橋梁の設計から架設、補修・補強、改築、更新までを一貫して手掛ける総合エンジニアリング会社となりました。今後も、優秀な人材を育て、更に技術の研鑽に励み、保有する豊富な技術力を有効に活用し、社会インフラの整備・保全を通じて、YBHDグループの発展に貢献してまいります。

今後の事業展開

橋梁事業に関しては、国内の新設橋梁事業のなお一層の充実を図りながら、今後成長が見込まれる橋梁補修、高速道路の更新・大規模修繕事業に注力してまいります。また、海外の橋梁建設においても積極的に取り組んでまいります。さらに、橋梁関連事業として保全のニーズに対応した耐震デバイスをはじめとする製品の開発を進め、拡販に向けた営業展開を行ってまいります。

超高精度加工技術をベースとした大型精密構造物の製造事業については、今後大きく伸長が見込まれる事業と考えています。本事業の拡大に伴い新工場の建設にも着手しており、更に積極的に取り組んでまいります。

株式会社 横河住金ブリッジ



株式会社横河住金ブリッジ
代表取締役社長 齊藤 功

就任の抱負

当社は、2009年10月に株式会社横河ブリッジホールディングスと住友金属工業株式会社(現・新日鐵住金株式会社)の共同運営事業会社として誕生いたしました。

茨城県内に業界最新鋭の工場を有し、鋼橋の製作から架設までの一貫工事を手掛けるほか、鉄鋼業で培われた素材開発技術力と素材の利用技術力をもとに魅力ある橋梁・鉄構エンジニアリング製品を数多く生み出してまいりました。

ご利用いただく皆様から高いご信頼をいただけるよう、引き続き人材育成、技術研鑽に努め、橋梁ならびに道路トンネル、土木鋼構造物、防災・減災関連設備など多様なエンジニアリング製品の積極的な事業展開を行っていくことにより、安全・安心で強靱な国土づくりに貢献してまいりたいと考えております。

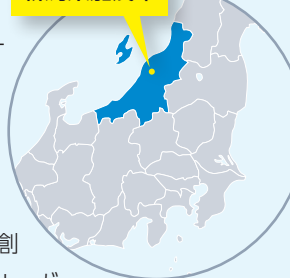
今後の事業展開

橋梁事業に関しては総合的な橋梁エンジニアリング企業集団であるYBHDグループの一員として、得意な地域・発注機関を中心に新設橋梁、および橋梁補修・保全工事の積極的な営業展開を行ってまいります。

鉄鋼エンジニアリング事業に関しては、橋梁関連製品の拡販はもちろんのこと、次期主力製品の開発や当社の強みであるトンネルセグメントをはじめとした地下土木鋼構造物の更なる開発に努め積極的な市場開拓・需要喚起を図るとともに、関係会社との連携を通じて、防潮堤などの鋼構造物の需要の開拓を進めてまいります。

チヨダシューズ株式会社 新潟工場改築工事

新潟県加茂市



今回ご紹介する「チヨダシューズ株式会社新潟工場改築工事」は、北越の小京都と呼ばれる新潟県加茂市に建設されました。

事業主のチヨダシューズ株式会社様は、1902(明治35)年創業の老舗靴メーカー株式会社リーガルコーポレーション傘下で国内最大の靴製造会社です。本工事は、工場棟と事務所棟を一体化した建築面積4,566㎡、一部二階建ての建物を、設計積雪150cmという多雪地域でありながら28mと13mのスパンを確保した大空間を実現させました。また、エントランスには高級靴ブランドのイメージを盛り込んだ瀟洒な外観を取り入れ、内部は吹き抜けの靴展示スペースを設けています。

当社のシステム建設製品であるyess建築は鉄骨・屋根・外壁・建具などの部材を標準化することで高品質の建物を短期・低コストで実現できる画期的な工法です。また、最近ではデザイン性や快適空間も実現できるフレキシブルな設計も可能となってきています。今後さらに高まるyess建築への需要に対してきめ細やかなサービスで対応してまいります。



工事名称	チヨダシューズ株式会社 新潟工場改築工事
建築面積	4,566㎡
建設場所	新潟県加茂市後須田285
元請会社	株式会社大石組



天城橋(てんじょうきょう)を ケーブルエレクション斜吊工法で架設

ソリッドリブ形式の中路アーチとして国内最大 アーチ支間350m!

厳しい環境と工程をみんなで守り抜く

本橋は、54年前の昭和39年に当社の大阪工場で最初の工事として製作され、現場で架設された天草五橋の天門橋の横に新天門橋(正式名称:天城橋)として平成30年5月20日に開通

した中路式アーチ橋です。天草地域の交通量(14,000台/日)の混雑緩和と天草市本渡から熊本市内までを90分で結ぶための工事として当社JVが施工した橋梁です。施工中に熊本地震(平成

STEP 3 熊本地震と雲仙普賢岳の吹きおろしでたびたび中断しましたが、1年で無事閉合できました。

28年4月14日・16日)が発生しましたが、幸いにも損傷やトラブルなく完成いたしました。施工にあたっては、航路確保のため、「三角ノ瀬戸」を跨ぐ、鉄塔支間500m、鉄塔高88m(いずれも国内最大)のケーブルクレーン設備を建設しました。なお、斜吊鉄塔は片側2,000トンを支える設備です。

アーチ部の350mについては、ケーブルエレクション斜吊工法で重さ30トンを超える部材(74部材)と横支材(12部材)の架設を約1年で完成しました(STEP2・3)。施工中は、雲仙普賢岳からの吹きおろしの強風(風速10m以上)に悩まされ、たびたび架設できない日がありました。また、夏場には日差しにより橋軸直角方向に60mm、高さ方向に100mm上下する環境の中で、作業員の努力により昨年11月末に閉合しました。

平成29年1月からは補剛桁をアーチ上に吊り上げる設備を設け、250mの支間を5ブロックに分けて施工しましたが、施工費削減のため、補剛桁架設時に斜吊鉄塔から閉合したアーチを



STEP 2 「三角ノ瀬戸」を跨いだケーブルクレーンは、支間、高さとも国内最大となりました。

吊り上げるという、国内外でも施工例の少ない特殊な架設工法を採用しました。

こうしてコンクリート橋脚と側径間部PC橋を含めて、4年間におよんだ大工事は、無事竣工を迎えました。工事期間中は、国内外から産学民合わせ3,000人を超える多くの方々が見学に訪れましたが、横河ブリッジの高度な技術を伝えることができたのではないかと思います。

天城橋の隣には54年前に施工した天門橋が架かっていますが、2橋が並び風景は美しさと迫力があります。地元は鮮魚も新鮮で、ますます観光地として注目を集めそうです。



現場の朝礼の様子



天城橋の架設要領

STEP 1 橋脚及び柱頭部の施工

橋脚からコンクリートを打設し、橋脚を立ち上げていきます。

STEP 2 アーチリブ下段の架設 (ケーブルエレクション斜吊工法)

斜吊ケーブルを張りながらアーチリブを中央に向かい張り出していきます。

STEP 3 アーチリブ上段の架設 (ケーブルエレクション斜吊工法)

斜吊ケーブルを張りながらアーチリブを張り出していき、中央ブロックを落とし込み、アーチリブを閉合します。

STEP 4 PC桁の架設(張出工法)、補剛桁の架設(台船曳航直下吊架工法)

PC桁を橋脚から張り出していきの同時に、5ブロックの補剛桁を台船から吊上げてつなぎ合わせていきます。

工事名称 国道266号交通円滑化改築(新天門橋)工事

工期 平成25年3月22日～平成30年7月31日
(三角大矢野道路開通:平成30年5月20日)

発注者 熊本県天草広域本部

施工者 横河ブリッジ・日本ピーエス・吉田・吉永建設JV

施工場所 熊本県上天草市大矢野町登立～宇城市三角町三角浦地内

橋梁形式 ソリッドリブ中路式鋼PC複合アーチ橋

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/



天城橋と天門橋

所在地：熊本県上天草市大矢野町登立～
宇城市三角町三角浦地内
構造形式：ソリッドリブ中路式鋼PC複合アーチ橋
橋長：463m 鋼重：4,026t

天城橋(写真左)の隣には約50年前に横河ブリッジが手掛けた天門橋(写真右)が架かっています。新しく完成したアーチ橋の天城橋と建設以来、長い間愛されているトラス橋の天門橋が並び風景は美しく、訪れる人々の心に残ります。

YBHDグループ



株式会社 横河ブリッジホールディングス
グループ全体の経営管理



株式会社 横河ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・土木・建築・保全・精密機器製造



株式会社 横河システム建築
システム建築・開閉式建築システム・環境



株式会社 横河住金ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・セグメント



株式会社 檜崎製作所
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品



株式会社 横河技術情報
情報処理サービス・ソフトウェア開発



株式会社 横河ニューライフ
不動産管理・情報システム・人材派遣



株式会社 ワイ・シー・イー
橋梁等構造物の総合エンジニアリング



Yokogawa Techno Philippines, Inc.



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号
TEL. 03-3453-4111 (代表) <http://www.ybhd.co.jp/>

